

工事事務(速報)の情報提供について

工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところでありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事務が発生しました。

各事務(管理)所の工事現場において、このような工事事務が再び発生することのないように工事事務概要を皆様にお知らせ致します。

本資料を活用し、請負業者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願い致します。

【工事事務(速報)発生状況】 (H22.9.30現在)

	9月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成22年度(今年度)	8件	41件	1人	16人
平成21年度(昨年度)	8件	46件	0人	21人

注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事務発生件数(速報)を示す。

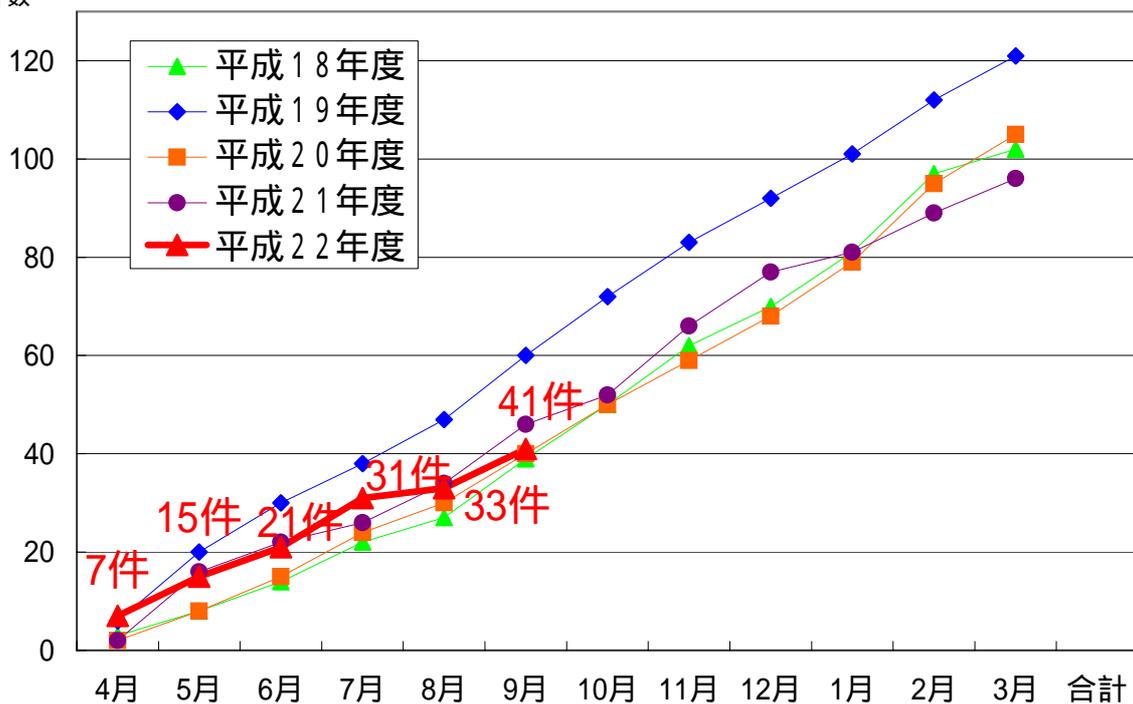
注2) 「9月発生件数」は、9/1～9/30の間に起きた件数。(月毎)

注3) 「累計件数」は、4/1～9/30の間に起きた件数。(累計)

注4) 「死亡者数」・「負傷者数」は、4/1～9/30の累計人数を示す。

注5) 平成22年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

件数

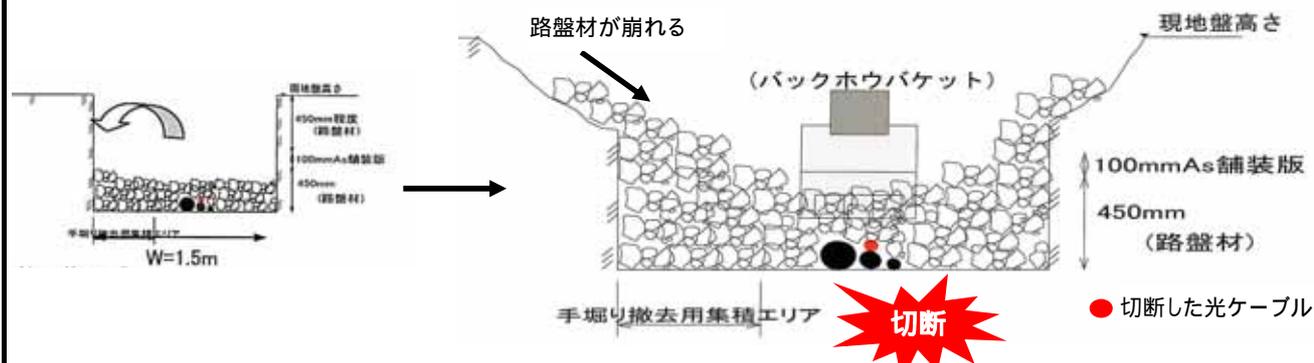


問合せ先:企画部 技術調査課 渡辺・直海 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 22 年 9 月 4 日 (土) 1 時 30 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 As舗装工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	光ケーブル損傷	
事故概要	埋設管掘削中に崩れて堆積した路盤材をバックホウにて除去しようとしたところ、光ケーブルを切断してしまったもの。				

事故発生状況

- ・ケーブルの移設工事を行っていた。
- ・埋設管の位置、土かぶりを確認していた。



- ・当初、人力及び電動ピックにて掘削を行っていた。
- ・しかし、路盤材が崩れてきたため、再度管路直上の掘削作業を行うことになった。
- ・作業量が多くなったため、オペレーターの判断でバックホウを使用してケーブルを切断させてしまった。



損傷状況

【事故発生原因】

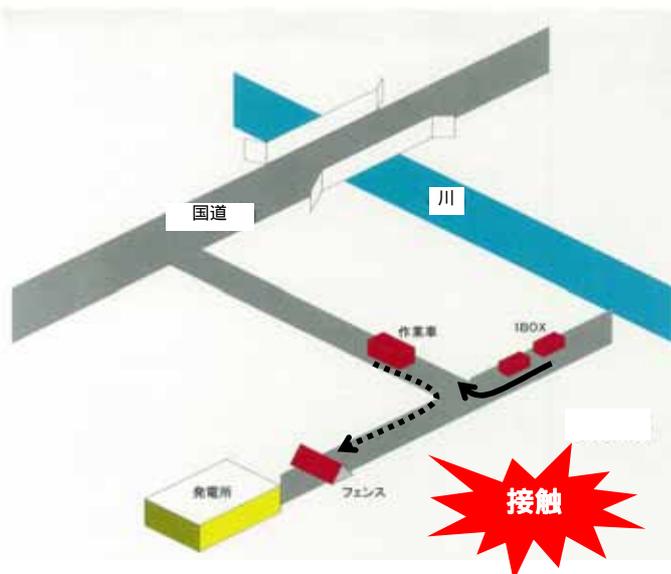
・地下埋設物を確認するまでは人力掘削を行うことにしていたにもかかわらず、バックホウを用いて作業を行ったこと。

【事故防止のポイント】

・作業手順について作業員に周知・徹底する。
 ・地下埋設物が想定される箇所・周辺では不用意に重機は用いない。
 など

発生日時	平成 22 年 9 月 13 日 (月) 17 時 0 分			天候	晴
工事情報	河川系事務所 業務				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	東京電力のフェンス損傷	
事故概要	撤収作業時に高所作業車を停止させたところ、サイドブレーキの利きが甘く、車両が動き出して、フェンスに接触し損傷させたもの。				

事故発生状況



・片側通行規制の道路をワンボックスカーを通すために、高所作業車を発電所の方向へバックさせて、発電所のフェンス前に停車させた。

・サイドブレーキをしっかりかけていなかったため車両が動き出し、フェンスに衝突し損傷させた。



フェンス損傷状況

【事故発生原因】

・高所作業車のサイドブレーキをしっかりとしなかったため。

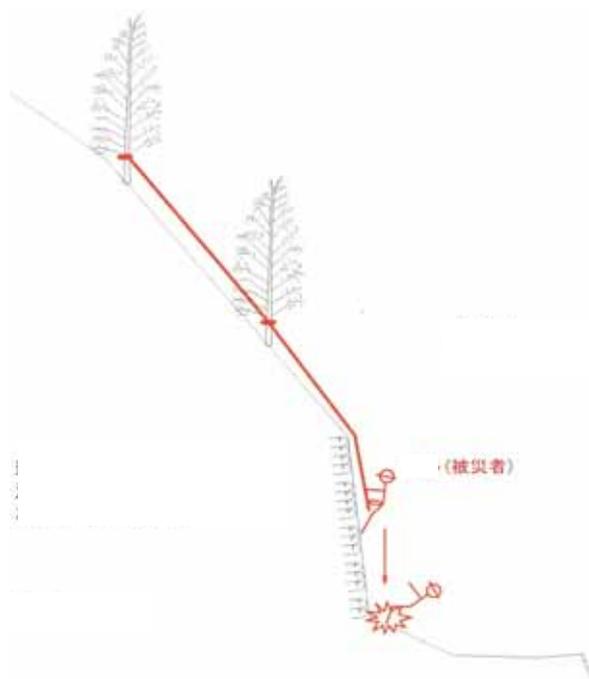
【事故防止のポイント】

・作業員に対して使用機械の使用方法についての指示・指導を徹底する。
・車輪止めの使用。

など

発生日時	平成 22年 9月 14日 (火) 14時 30分			天候	晴
工事情報	河川系事務所 一般土木工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	男	31	作業員	左大腿骨骨折	
事故概要	法面で巻尺にて面積を測量中に3mの高さから滑落したもの。				

事故発生状況



- ・測定位置に親網が無かったので、施工時に設置した親網を横の木に廻した為、端部が短くなり法尻まで届いていなかった。
- ・親網が法尻まで届いていないのに、届いていると思い込み法面を降りたため、落下した。

【事故発生原因】

・現場状況に応じた親網が設置されていなかったため。 など

【事故防止のポイント】

・作業前の親網設置状況の確認。
・現場にあった作業方法の指導・徹底。 など

発生日時	平成 22年 9月 15日 (水) 14時 0分			天候	曇
工事情報	河川系事務所 プレストレストコンクリート工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	男	52	作業員	右前腕挫滅創	
事故概要	脱枠作業においてベビーサンダーで型枠を切断していた際に、作業員が右腕を負傷したもの。				

事故発生状況



・小口型枠解体中に、合板型枠をベビーサンダーで小さく切断しようとしていた。

・ベビーサンダーの回転刃が鉄筋に接触し、その弾みでベビーサンダーが跳ねて作業員の右手に当たり負傷した。

【事故発生原因】

・作業手順書の不履行によるもの。(作業手順書にはバール、糸鋸を使用することになっていた。)

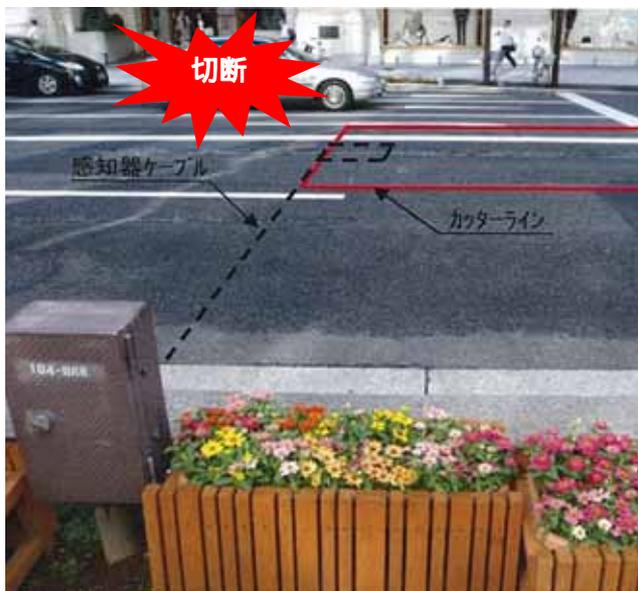
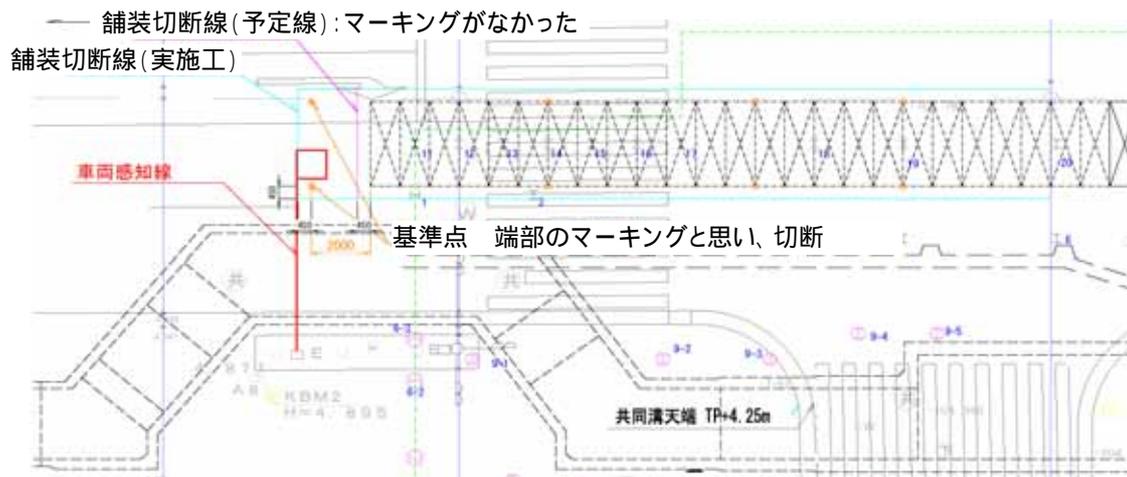
【事故防止のポイント】

・作業手順について作業員に周知・徹底する。
・作業員に対して用途に応じた工具の使用を徹底する。 など

発生日時	平成 22 年 9 月 15 日 (水) 23 時 30 分			天候	雨
工事情報	道路系事務所 一般土木工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	車両感知器ケーブル損傷	
事故概要	舗装切断作業中にケーブル(警察の車両感知器)を切断したもの。				

事故発生状況

・覆工版を敷くために、ピンクの点線を切断する予定だった。



・切断位置の現地マーキングを誤った。

・当日作業員はケーブルがあったことを認識しておらず、後日感知器管理者よりデータが欠測していることで、切断が発覚した。

【事故発生原因】

・工事関係者間での情報共有不足によるもの。
・舗装切断の作業手順が明確になってなかったため。

【事故防止のポイント】

・作業中の工事関係者間での情報共有の徹底。
・作業手順について作業員に周知・徹底する。 など

発生日時	平成 22 年 9 月 16 日 (木) 12 時 20 分	天候	雨
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事		
被災の状況	性別	年齢	職種
	-	-	-
事故概要	被災の程度		
	電話線切断		
事故概要	バックホウを移動する際に、ブームを上げたまま移動したため、電話線に接触し切断させたもの。 (被害: 1件)		

事故発生状況



- ・15tトラックにて運搬された杭打ち用資機材を作業現場に荷降ろしする作業をしていた。
- ・バックホウが荷降ろしに影響すると思い、移動させた。その際、バックホウのアームを上げたまま移動したため、電話線を切断した。
- ・機器の配置計画が十分に作成されておらず、予定外の作業であったため、主任技術者が一人で移動を行った。

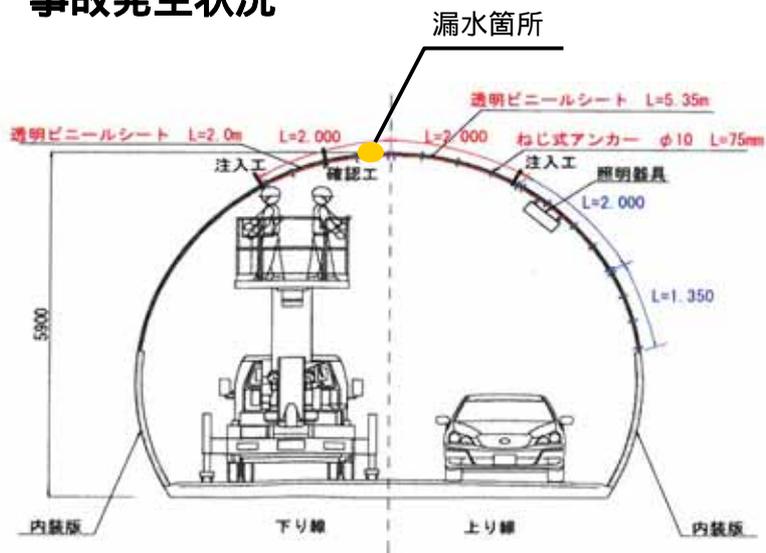


【事故発生原因】
 ・機器の配置計画が不十分だったため。
 ・バックホウ移動時の周囲安全確認不足によるもの。

【事故防止のポイント】
 ・バックホウ移動時はアームを下げるこ
 と。
 ・バックホウの周囲安全確認について
 周知徹底。
 など

発生日時	平成 22 年 9 月 16 日 (木) 12 時 55 分			天候	曇
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	第三者車両汚れ	
事故概要	トンネル内で空洞の充填を行っていたところ、トンネル壁面のクラックからモルタルが吹き出し、通行車両の飛散したもの。				

事故発生状況



・事前にクラック箇所を止水する作業を行ったうえで裏込注入を行っていたが、今回漏水した箇所は想定外のジャンカより漏水し、飛散した。



トンネル内の状況



第三者車両 汚れの状況

【事故発生原因】

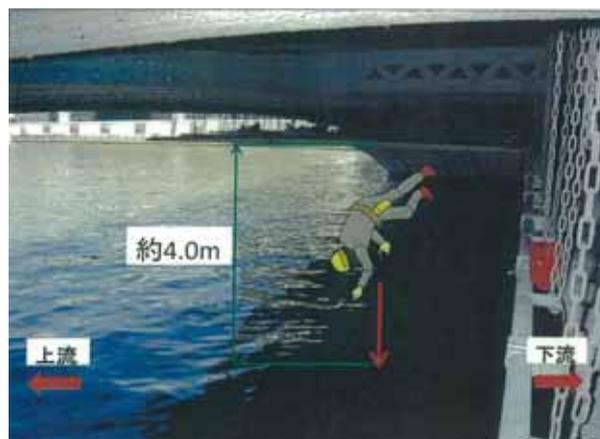
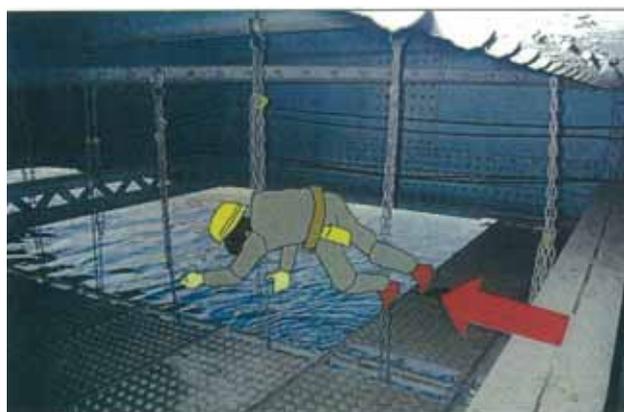
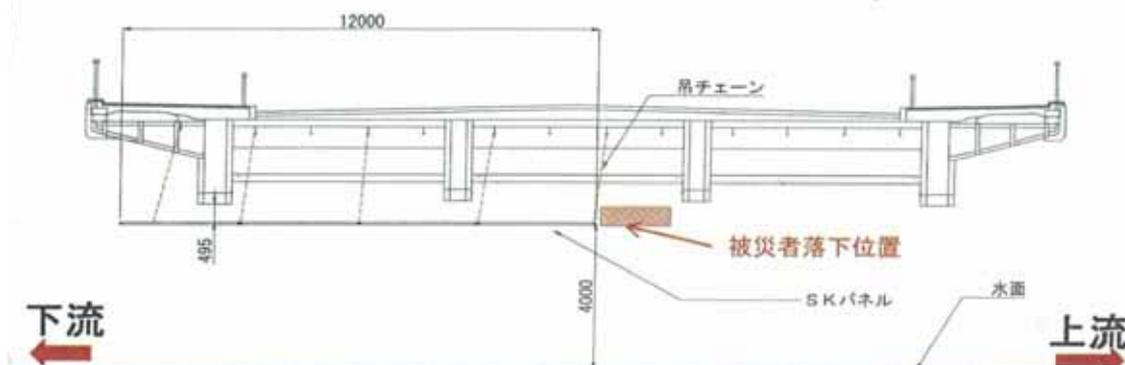
・作業着手前のクラックの確認不足。

【事故防止のポイント】

・作業前に作業手順及び役割分担を確認する。 など

発生日時	平成 22 年 9 月 16 日 (木) 22 時 0 分			天候	雨
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	男	41	作業員	死亡	
事故概要	足場架設作業中に作業員が川に転落し、死亡したものと。				

事故発生状況



落下時の状況(推測)

・吊り足場上で照明機器の移設作業中に誤って開口部から転落したと思われる。

【事故発生原因】
・調査中

【事故防止のポイント】
・ライフジャケットの着用、使用方法の確認。
・安全帯の使用徹底。
・作業箇所の照度確保。 など